

マーケットの動き（2026年4月6日～4月10日）

先週の為替市場は、前週末比で米ドルは対円で下落（円高）しました。週半ばに中東で2週間の停戦合意が伝わると、地政学リスクの後退を受けて円買い・ドル売りが優勢となりました。その後は、米長期金利が上昇したことから日米金利差の拡大が意識され、円売り・ドル買いへと転じました。また、原油価格の先高観が根強く、エネルギーを輸入に頼る日本の貿易赤字が拡大するとの見方も、引き続き円相場の重荷となりました。ユーロは前週末比、対円・対米ドルで上昇しました。

投資環境見通し（2026年4月）

米ドル、ユーロはともに円に対して堅調に推移

米ドル：中東情勢の緊迫化がドル高要因となり、日本政府による財政拡張政策が円安材料とみられる中、ドルは円に対して堅調に推移するとみてます。ただし、円安が一段と進む場面では日米通貨当局が警戒感を強めるとみられ、次第に上値が重くなるとみています。

ユーロ：ECB（欧州中央銀行）による早期の利上げ観測がユーロ高要因となり、日本政府による財政拡張政策が円安材料とみられる中、ユーロは円に対して堅調に推移するとみてます。

	4月10日	変動幅（円）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
米ドル/円	159.12	▲0.25	1.51	6.69	14.50
ユーロ/円	186.62	2.54	3.05	10.11	24.93

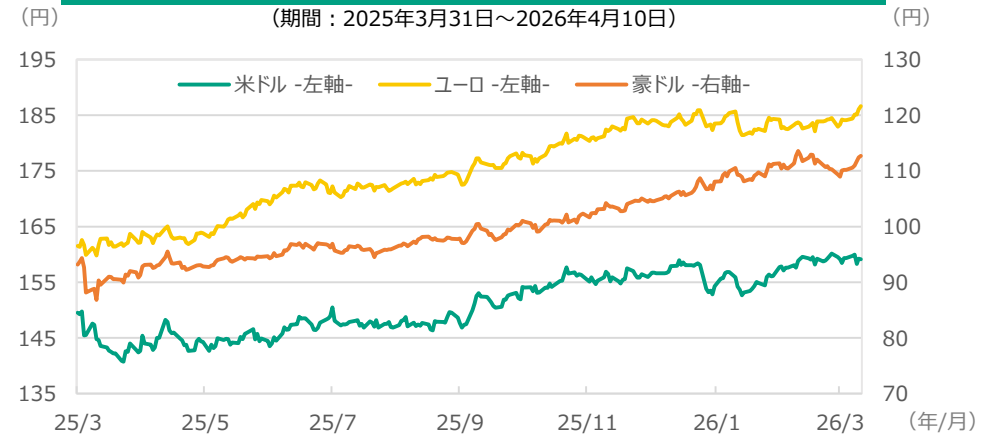
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

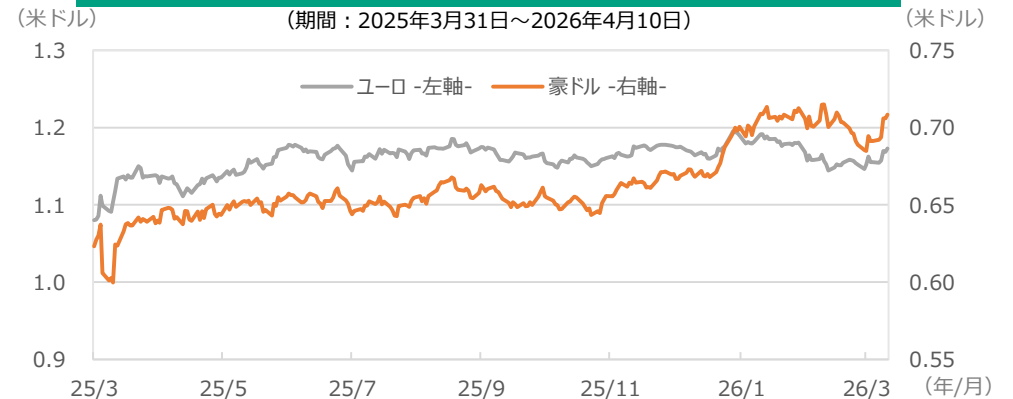
https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202604_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

為替レートの推移（対日本円）



為替レートの推移（対米ドル）



※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成